



「医療専攻」便り

三条東高等学校 Vol.1 (平成29年9月16日)

医療専攻二期生一学期活動内容

●医療専攻開講式 4月21日(木) 16:15~17:05

“医療従事者”を目指す「医療専攻」が第二期生17名の開講式が行われました。開講に当たり倉嶋校長より「一期生のつくった道を超えて、君たちがこれからの道をつくっていく」など二期生としての心構えや激励のことばがありました。

その後、靱山先生より年間計画や講座の説明が行われ、選択者それぞれが、志望する職業や動機、講座で身につけたいことなどをレポートにまとめました。



●医療専攻講演会① 5月16日(火) 14:55~15:50

講師：新潟県看護協会常務理事 星野洋子 様

演題：看護師のキャリア形成

内容：医療と介護の将来像、病院多死社会からの脱却は、キャリアとは？キャリアをデザインするとは？などの話を通して、医療を目指す者の心構え、今後の自分たちに必要なことを学びました。



○医療専攻学習会① 5月22日(月) 16:15~17:00

内容：講演会①のグループ討議



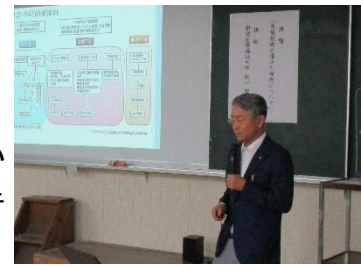
日本はどの国よりも高齢化が進んでおり、世界のモデルとなっている。2050年には65歳以上1人に対して20~64歳は1.2人で支える「肩車型」社会になる。キャリアデザインとは「自分の人生の時間の過ごし方」を決めること。将来のことを具体的にして、今自分が何をしたらいいか考えることが大切。他人と過去は変えられない自分を変える。

●医療専攻講演会② 6月13日(火) 16:00~17:00

講師：新潟医療福祉大学臨床技術科教授 牧口智夫 様

演題：医療技術の進歩と倫理について

内容：不妊治療、クローン技術、再生医療、ゲノム編集といった医療技術の進歩についての専門的な話、医師の行為が問題視された事案、生命倫理の課題など、で人として何が正しいのか常に考え続けなければならないといった医療人としての倫理観についてのお話がありました。



○医療専攻学習会② 6月15日(木) 16:15~17:00

内容：講演会②のグループ討議・発表



倫理は教育によって変わる。医療技術が進歩しても、倫理的問題を解決しないと人に応用することはできない。倫理とは守るべきルール、秩序であり、医療に携わるにおいて絶対に外れてはならない。人として何が正しいか常に考えなければならない。クローン技術は本当に人間に使ってよいのか。ゲノム編集によって食べ物を大きくしたり、加工しやすくしたりすることができ食糧問題の解決につながる。

●医療専攻講演会③ 7月11日(火) 16:00~17:00

講師：新潟大学医歯学総合病院 渡邊恵美子 様

演題：チーム医療とは

内容：医療技術の進歩によって、治療法も変わってくる。現代では、医師や看護師等の許容量を超えた医療が求められ、チーム医療の推進が必須である中で、チーム医療のもたらす効果や一人の患者さんに対してどれだけの人数が関わっているか、様々な業務の重なり、医療現場の特徴など、医療現場についての詳しいお話がありました。



○医療専攻学習会③ 7月13日(木) 16:15~17:00

内容：講演会③のグループ討議・発表



看護師として必要なこと

患者さんへの思いやり → 最高の医療の提供

常に勉強 → 医療の技術は常に進歩

コミュニケーション能力 →

自分の1つのミスが患者の死に直結する場合がある。

チーム医療があることで、医療の質を高め、効率的な医療サービスを提供できる。

○医療専攻病院見学①②③の事前学習 7月14日(金) 16:15~17:00

内容： 事前学習、病院について調べる

●医療専攻病院見学① 8月4日(金) 16:00~17:00

会場： 新潟大学医歯学総合病院

内容： 病院の仕事全般について

県内唯一の大学病院、一人の患者さんに対して多職種の医療者が関わっていることなど総合病院の説明を受け、病院見学が始まりました。ドクターヘリの見学では、5人一組業務にあたりで、出勤の回数がだんだん増えてきているという説明がありました。その後、病棟・外来診療棟・中央診療棟の見学をして、担当の方からその場その場で様々な説明を受け、生徒からは「見るもの、体験するものすべてに驚きと発見があった」といった声が多く聞かれ、とても充実した一日となりました。



●医療専攻病院見学② 8月18日(金) 9:00~12:00

会場： 三条東病院

内容： 終末期医療について

説明を受け、3グループに分かれて病院見学をしました。高齢の方がとても多く、様々な病を抱えている患者さんがいるので、チーム医療は欠かせないとのことでした。病室の前の名札には患者さんの状態が一目で分かるようにシールが貼られており、緊急時の対応に困らないような工夫がされていました。患者さんと病院で働いている人の距離が近く、先日行われた納涼会など院内で催されているイベントの写真が多数展示されていました。患者さんだけでなく、ご家族の方の苦痛も和らげ、残された時間の生活の質(QOL)を高める、安らかな最期を迎えられるようにしていることなど終末期医療のお話も聞くことができました。



●医療専攻病院見学③ 8月22日(火) 9:00~12:00

会場： 三条総合病院 燕労災病院 済生会三条病院 富永草野病院

内容： 地域の医療について

各班4~5名に分かれて4つの病院の見学に行きました。

各病院とも、病室だけでなく、検査室、生理検査室、放射線室、透析室、手術室、リハビリ室など細部にわたり様々なところを見学し、説明を受けました。

「間近でチーム医療を感じることができた」「普段は絶対に着ることのない手術着を着て手術室に入り手洗いの体験という貴重な体験ができた」「産まれたばかりの赤ちゃんが見ることができた」「白衣の着る意味がわかった」といった、地域の医療現場ならではのより近い経験をさせていただくことができました。

また、県央地域の今後の医療、県央基幹病院基本構想についても説明をきくことができ、最期には「是非地域の医療従事者として活躍してほしい」と激励の言葉を受けました。



○医療専攻病院見学①②③のまとめ 8月22日(火) 13:00~15:00

内容： グループ討議・発表

病院見学①②のまとめと4つの班に分かれて見学を行った③についての情報の共有とまとめを行いました。病院見学後の活動ということで疲れの見える様子もありましたが、今見てきたことや、それぞれ感じた疑問など積極的に意見交換をする姿が見られました。

